

事業報告書（令和5年度）

事業名 ユースワーク支援を考える会

団体名 エンドット 担当者名 光岡 歩美

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

【活動内容】

・毎週木曜日の17:00~19:00に大学生スタッフが集まりミーティングを実施。ユースセンターを利用する中高生たちのゆるやかなつながりの場を作るにはどのような場であるとよいのか、中高生と大学生スタッフの関わり方などの議論を重ねた。夏休みの長期休暇(8月15日(火))を利用し、構成的グループエンカウンターについて文献研究を行った。

・月に1度、ユースセンターの前で大学生スタッフによる中高生対象の居場所カフェを実施。

実施日：10月14日(土)・11月18日(土)・12月17日(日)・1月13日(土)・2月17日(土)
お菓子やたこ焼き、フライドポテトなどを無料で提供し、来てくれた中高生とお話しながら、ユースセンターを知らない中高生へ認知を広げていけるよう行った。またそこからつながった中高生がほかの友だちを連れてきてくれるなど、少しずつ輪を広げていくことができた。未整備であった自習室も中高生の意見を参考にしながら整備を行った。

【イベント内容：おかやまユースサミット】

1. 概要：中高生・大学生が中心となって奉還町商店街で「おかやまユースサミット」を開催。ユースワークについての認知を広げていくため、商店街とタッグを組んで、学生主体の文化祭のようなイベントを実施。
2. 対象：中高生・ユースワーク支援に関わる人
3. 実施日：令和5年12月17日(日)
4. 場所：奉還町りぶら・奉還町ユースセンター
5. 参加者：405名

【内容】

- ・基調講演「ユースワークとは何か～兵庫県尼崎市の事例から」 講師：片岡 一樹氏
- ・学生と岡山市議会議員(当選1回限定)によるパネルディスカッション
「岡山市、理想の子ども・若者政策について」
- ・Z世代とつくる奉還町クリスマスマルシェ&ステージ
- ・高校生レストラン(瀬戸南高校・金光学園高校)
- ・奉還町近過去マッププロジェクト

おokayamaユースサミット



2. ESDの視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

この事業を通して、当事者である中高生が企画・参加しながら同じ中高生を巻き込んでイベントを作っていく「ピアなかかわり」の要素を盛り込んだ。このようなイベントは、中高生・ユースワーク支援にかかわる人だけでなく、都市部の商店街と親和性が高いことから対象者だけでなく、「商店街活性化」の視点も含むことができたと考えている。

②どのように学び合いを取り入れたか

ユースセンターの開所時には、「構成的グループエンカウンター」の視点を用いて、なにか起こる前の予防的ななかかわりができるよう、年齢の近い大学生スタッフをピアカウンセリングの立場で関わるようにした。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

ユースワーク支援は、こども・若者たち本人が主体的にかかわるものである一方で、その場づくりは第3者が中心となって行われることが多く、両者には隔たりが生じることが懸念される。こうした隔たりを乗り越えるため、ベテランスタッフだけでなく年齢の近い大学生スタッフが介入し、良好かつ親密な関係を築けるよう工夫した。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

岡山市初のユースセンターで活動を少しずつ積み重ねてきた。このような活動を岡山県内で持続可能で充実した活動にしていくためには行政からの支援が欠かせないと考えている。今回の「ユースサミット」のイベントの中で岡山市議会議員さんとパネルディスカッションをさせていただき、認知を高めたり、予算化につなげていくための意見交換をすることができた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

まだまだ「ユースワーク」に関する認知は低いこと、中高生自身が放課後や休みの日の心の拠り所として感じてもらえるためには、どのような場であるといいのか、どのような場づくりが必要であるかは明らかになっていない。中高生自身のニーズを大人が汲み取りいかしていけるよう、引き続き取り組んでいきたい。

普段のユースセンター

